



# なきごえ



1994

6



# New Face

(撮影:大野 尊信)

- 2—— New Face バーバリシープのふた子の赤ちゃん
- 3—— 動物と私 アフリカの国立公園を訪ねて(佐藤良彦)  
カバーウォッチング カナダヅル
- 4—— 奄美大島の自然(前田芳之)
- 6—— ホッキョクグマの繁殖(大東孝司)
- 8—— グラフZOO コウノトリの仲間たち
- 10—— 獣医室から②(竹田正人)
- 11—— ZOO DIARY

## カバーウォッチング

カナダヅル  
ツル目 ツル科

*Grus canadensis*

シベリア北東端から北アメリカ北部で繁殖し、北アメリカ南部で越冬する全長約1mのツルで、ごくまれに冬鳥として日本へ飛来することがあります。

(撮影:吉本昌俊)

## ||||| 動物と私 |||||

### アフリカの国立公園を訪ねて

**私** はこれまでアフリカのタンザニアとザンビアに5年間ほど滞在しました。どちらも世界的に有名な「野生の王国」です。とはいえ、どこにでも野生動物がいるわけではなく、国立公園まで出かけないと簡単にはお目にかかれません。したがってアフリカ人といえどもライオンやキリン、ゾウなどの動物を見たことがない人が大勢います。国立公園での動物探索ツアー(サファリ)は、どちらかといえば外国人の贅沢な楽しみであり、庶民がおいそれと行けるほど普及していません。そんな彼らに申し訳ないと思いつつ、私は国立公園へ何度となく動物を見に行きました。

**タ** ンザニアではセレンゲティ、マニヤラ湖、ンゴロンゴロ国立公園を訪ねました。いずれもその雄大な自然にはずいぶん魅せられました。とくに広大なセレンゲティ国立公園には、ヌーやシマウマ、ガゼルの仲間、キリン、アフリカスイギュウなど無数といつていいほどの草食動物と、ライオン、チータ、ハイエナなどの肉食獣が住んでいます。

ザンビアではサウスルアンガとロックンバー国立公園を訪ねました。前者はゾウとカバ、ワニの生息数が多いことで、後者は野鳥の楽園として知

### ← バーバリシープのふた子の赤ちゃん ウシ目 ウシ科

今年も2月25日以来、次々赤ちゃんが生まれ、13頭中8頭の赤ちゃんが育っています。写真は4月13日に生まれたオスのふた子の赤ちゃんです。



佐藤良彦さん  
(獣医師)

られています。ザンビアではクーズー、ブークー、リーチュエ、セーブルアンテロープなどの珍しいアンテロープを初めて見ることができました。

**国** 立公園でのサファリはいつ行っても楽しいものです。が、ときには変わった経験をしたこともありました。友人と2人でジープに乗り、セレンゲティ国立公園を訪ねたときのことです。草食動物はたくさんいたのですが、その日はライオンやチータなどの肉食獣がまったく姿を現しませんでした。友人が「水のあるところへ行けばいるかも知れない」といって、地図を見ながら湖まで車を走らせました。そこでも結局、1頭のライオンすら見つかりませんでした。友人は、「ちょっと向こうの方へ探しに行ってくる」といって、車に乗ってかなたの方へ行ってしまうました。私もそのときはまったく安心し、カメラをかかえながら湖の近くをのんびりとぶらついていました。ところが水際の地面には、おびただしい数のライオンの足跡がついていたのです。鮮やかな輪郭から足跡はそれほど古いものではないと思われました。あわててポケットの中に手を入れナイフでもないかと、さぐってみましたが見つかりません。たとえ小さなナイフがあったとしても、それでどうにかなるものではありませんが、そのときは真剣に探したのです。「溺れるものは薬をもつかむ」という心境だったのかも知れません。15分ほどして友人はもどって来ましたが、それまでは気が気ではありませんでした。

アフリカの国立公園は野生動物の宝庫であり、だれしもその素晴らしさには魅せられます。そして本当の「自然」の中では、生身の人間ほどか弱い存在はないことも思い知らされたのです。

(さとう よしひこ)

# 奄美大島の自然

前田芳之

(奄美の自然を考える会理事)

**奄** 美大島は鹿児島県本土から南西に400km程離れた日本では沖縄、佐渡島に次いで3番目の面積を持つ島です。その間に種子島、屋久島、トカラ列島があり、生物分布の境界線としてよく知られている渡瀬線はトカラ列島の宝島と横当島の間とされています。気候については亜熱帯雨林地域に属し、もちろん冬期でも霜が降りたりすることはありません。植物も多様性に富み、当然それらのつくる様々な環境が島の動物たちの住処や餌の生産に深く関わっています。

奄美大島は東洋のガラパゴスと言われ、日本本土とは全く違った動物がいるのですが、これは島の生い立ちに関係があるので簡単に触れてみます。奄美大島は琉球列島の北の端に位置していますが、ずっと昔は大陸の縁の部分だったり、海の底になったり、また切れ切れの陸地の一部だったりしたのです。最後に大陸とつながったのは150万年から200万年位前で、このとき琉球列島は奄美群島(奄美大島、かけろま島、請島、与路島、喜界島、徳之島、沖永良部島)、沖縄、沖縄近海諸島、八重山諸島(宮古島、石垣島、西表島とその近海諸島)を含んだ細長い陸地で台湾を経て大陸へとつながっていたらしいです。しかしこのときも北の端はトカラとの間で切れていて現在に至るまで生物の分布の大きな要因となっているのです。大陸とひと続きの時に、さまざまな生物が琉球列島の部分に移動してきて分散し、50万年程前に海水の水位が上がり琉球列島の部分もかなりの地域が水没し、台湾、大陸とも切断されました。日本の他の地域は大陸と離れたのはもっと後のことで、琉球列島ははるかに古い時代から島として分離し、遺存種、固有種が多いのはここに理由があります。その後約2万年前に大きな氷期があり海水の水位が100m以上も下がり奄美大島では本島と属島がつながりましたが、また徐々に海水面が上がり6,000年位前にだいたいの現在と同じような地形になりました。だいたい前置きが長くなりましたが以上のようなことが奄美大島の動物たちの特殊性の原因だということを感じておいてください。

**奄** 美大島の動物といえばまず挙げられるのはアマミノクロウサギでしょうか。最近ゴルフ場開発による環境破壊との関連で、よく新聞などでも紹介されるようになり

ましたが、日本で一番最初に国の特別天然記念物に指定された



アマミノクロウサギ (撮影: 浜田 太)

というものはあまり知られていません。アマミノクロウサギは恐竜の時代が終わりを告げた5,000万年から6,000万年位前にその先祖が現れ、3,000万年から4,000万年前に繁栄していたとされるムカシウサギ亜科の仲間です。現在はメキシコ高地のメキシコウサギ、東、南アフリカのサバンナ地帯にアカウサギと奄美大島と徳之島にアマミノクロウサギが、その当時の形態を残したまま生き続けているのです。奄美大島には200万年位前に移入したのではないかとされていますが、あまりはっきりしたことはわかっていないようです。体色は焦茶色、または黒褐色で目と耳が小さく、脚は短くて、ツメは強力で前足の力はたいへん強く穴掘りに適しています。土穴、大きな岩の隙間、ときには大木の洞にも住みます。山中で観察するしかないのですが夜行性で大変憶病なのでなかなか長時間の観察はできません。おまけに猛毒を持つハブも夜になると餌を求めて行動が活発になるのでその注意もしなければなりません。ただ、その姿を見るだけなら金作原を抜けて島の中央部を縦断しているスーパー林道やその支線を根気よく走れば出会うことができます。夜の闇の中でみるとこちらのライトに反射する瞳は燃えるような真っ赤な色をしているので、彼らのテリトリーに踏み込む人間に対する怒りが込められているような気がするがあります。1度だけどうしても触ってみたいと触れたことがあるのですが、普通に私達の知っているウサギとは全く違ったあまりにも硬いごわごわした手触りでびっくりしました。餌は主に木の実や草の茎等で草食性のようです。最近では写真撮影も良い機材があるので昔よりは楽に色々な行動が記録されていますが交尾行動や出産、育児などまだまだ謎だらけです。

**島**にはクロウサギのほかにはケナガネズミ、アマミトゲネズミ、ワタセジネズミ、オリイジネズミ、アマミキクガシラコウモリ、リュウキュウイノシシが固有のほ乳類として生息しています。ケナガネズミは森林性の樹上生活ということでアマミノクロウサギ以上に見つけるのは難しく、山歩きをしていてもめったに遭うことはありません。特に最近では伐採が進み、これら大型のネズミが巣造りしたり生活する場所が少なくなってきたので

固体数もずいぶん減っているはずですが。日本産野ネズミの中で最大種で、名前のように体毛は長く特に背中のは長い、尾も立派で先の方だけ白い毛のが愛嬌があります。地上にはあまり降りないのだと思いますが、たまには降りて餌を探すようで、林道で出会ってびっくりして逃げていくときの歩き方はよたよたと不器用なのが木登りの巧みさと同じ動物とは思えないほどです。私は残念ながら巣を見たことがないのですが大木の洞の中に小枝を詰めて厚みが1mにもなる大きな巣を作るそうです。

アマミトゲネズミは里にも多くいるようです。このネズミはジャンプが得意でびよんびよんと飛んでハブの攻撃をかかわすのを見たことがあります。島で寄生虫の研究をされていた鈴木博先生の話ではアリの大好物でアリの巣を掘り出して大量に捕食するとのことでした。

ワタセジネズミとオリイジネズミは小さな動物で食虫類に含まれています。オリイジネズミの方は大珍品で未だ数頭の記録しかなく鈴木先生が湯湾岳で1974年に3頭記録されました。ワタセジネズミも可愛い動物で成獣でも体長6cm位しかなく体重もわずか5グラム前後、口先のとんがった玩具のような生物です。畑、草地、庭先等で見られますが、秋になると草地、庭先で死んでいるものをよくみかけるのですがこのことについては原因がわからないままです。私には何故か直射日光にさらされたために死んでしまったような気がしてならないのですが専門家にも確答はないようです。

リュウキュウイノシシは本土のイノシシの亜種とするか独立した種とするかの2つの意見があるのですが外見的には本土イノシシの半分ぐらいの大きさしかなく(最大級で60kg位)、年に2度繁殖するということが変わっていることで、通常の行動などは変わらないと言われています。固体密度は島の方が高いようで、現在でも狩猟の対象として毎年盛んに捕られています。普段は用心深いので親猪と出会う事は少ないがウリ子の時は林道を何頭もがチョコチョコと集団で歩いているのを見ることがあります。

**奄** 美と言えばハブと言われる有名な毒蛇のことも少し触れてみたいと思います。分布は奄美大島、徳之島、沖縄群島でトカラ群島のトカラハブ、八重山群島のサキシマハブは別亜種と



ハブ (撮影: 森田秀和)

られています。日本産毒蛇の中では最大で記録では2m30cmを越すものが報告されており、住民の目撃談ではそれこそ途方もない大蛇がいると言われています。

2mを越えるものは少ないようですが3mぐらいまでならどこかにいるのではないかと思っています。行動時間は午後8時から9時頃と夜明け前後で、採餌のために活発に移動し、それぞれ1匹の活動範囲は100m四方位だとする調査結果もありますが、本当の野生状態とかなり違う数値になるかもしれません。毒量は多く、注射針のように中空になった長い毒牙からポタポタと落ちるのを見ると大抵の人はゾッとすることはまずです。憶病ではあるが鼻の前のところにあるピット器官(赤外線感知器官)の反応に攻撃性が組み込まれて制御されるため熱を感知すればそれに向かって咬みつくという動作をするので凶暴性があるとされています。いずれにせよ、島の動物のなかでは最も危険な存在には違いありません。住処も普通の民家の床下から畑、海岸、山地とどこにでも潜むので常に注意だけは必要です。最近では道路事情が良くなり短時間で処置する事ができるようになったので死亡することはめったにありませんが咬傷事故は毎年100件は下らないので島での野外観察を試みる時は気をつけて下さい。

**ハ**ブ以外のハ虫類としてはヒヤン(有毒)、アカマタ(無

毒)、ヒメハブ(有毒)、ガラスヒバ(無毒)、両生類では本土のヒキガエルに似たオットンガエル、日本産蛙の中で最も美しいイシカワガエル



イシカワガエル (撮影: 森田秀和)

ル、ハナサキガエル、グリーンの鮮やかなハロウエルアマガエル等、鳥類は昼間はルリカケス、夜



アマミヤマシギ (撮影: 森田秀和)

はアマミヤマシギ、セレベスコノハズク等が林道沿いで見ることができ、春から夏にかけてはアカヒゲ、アカショウビン、オーストンアカゲラ、オオトラツグミ、リュウキュウカラスバト等の声を聞いたり、運が良ければその鳥達を見ることができでしょう。山の木は昔に比べれば随分と減りましたが奄美の森はまだ色々な動物達が住んでいるので

(まえだ よしゆき)

# ホッキョクグマの繁殖

**私**がホッキョクグマの担当になったのは、昨年の8月のことでした。初めは不安がいっぱいであまりのゆとりは全くありませんでした。それまでは観客と同じ側からホッキョクグマを見ていただけだったので、動物舎に入り、直接オリ越しに見たときは、その大きさに驚かされました。そんな不安を心に抱き、対面したホッキョクグマに“これからよろしくお祈りします。”と、思わずあいさつをしてしまいました。毎日、動物舎の清掃をしていて驚いたのは、ホッキョクグマの便は下痢のように軟らかいことでした。また放飼場での行動を観察していると、ホッキョクグマは水の中に意外と入らず、歩き回っては、寝ていることが多いことに気がつきました。

そんなある日、ホッキョクグマの繁殖について聞かされたときは、少々気持ちが重く、不安になりました。当園のホッキョクグマの出産はこれまで5回あり、子供が育ったのは2回だけで、2回に1回は失敗しているからです。そして昨年の11月には出産が予想されていたのでした。しかし、不安はあるものの、「ぜひ、繁殖を成功させてやるぞ」とファイトがわいてきたのも事実でした。そうしたなかで観察をつけていると、10月下旬には、だんだん餌を残すようになり、出産の兆しと思われました。そこでこれまでの経過を参考に、ホッキョクグマ舎上の観覧通路を立入禁止にし、動物舎にはベニヤ板を張って部屋を暗くし、赤ちゃんの音が確認できるようにマイクを取り付け、少し離れたクマ舎の管理室にスピーカーをセットしました。ホッキョクグマの母親の絶食は11月1日から行い、11月3日に産室にワラを入れ、水道水が自由に飲めるようにして産室に入れたままにしました。これは、野生のホッキョクグマのメスが雪洞の中で出産し、その中で数か月にわたり子育てをするのに合わせた措置で、動物園では落ちて産室ができていく環境をつくるためです。父親については、産室の横でガタガタされると困るので、母親を入れてからは約3か月の長い間、外の運動場で生活してもらうことになりました。

母親を部屋に入れた後の私の日課は、母親への給餌をしないかわりに、朝・昼・夕方に子供の鳴き声を確認するため、マイクを通して聞こえる産室の音を聞くことでした。

初めの頃は楽しく気持ちにも余裕がありましたが、日がたつにつれマイクを通して聞こえるのは、

園内放送や入園者の声ばかりで、しだいに気もあせりいららする日が続ききました。

そんな毎日を繰り返しているうち、11月も終わりの27日になりました。土曜日とあって入園者もたくさん入っていて、私も朝から忙しく、産室からの音を確認に行くことができませんでした。午後1時ごろにやっと時間が取れ、スピーカーに向かいましたが反応はなく、「今日もダメなのか」とあきらめていました。しかし、やり残した作業を片づけて、3時20分ころ再び何げなく、スピーカーのスイッチを入れたところ、「オギャー、オギャー」とか高い、まるで人の赤ちゃんの泣き声のような大きな音が私の耳に入ってきました。

最初は何か何だかわからず、ボーっとしてしまいましたが、少ししてホッキョクグマの赤ちゃんの声だと気がつき、思わず「やったー！」と叫んでいました。その後すぐ皆に連絡し、喜びを分かち合いました。私にとっては、長い27日間であり、また、短い27日間でした。

そんな喜びも束の間、「出生後3日～4日間に子供の音が確認できなくなり、死ぬことが多い。」と聞かされ、あらためてホッキョクグマの繁殖の難しさを感じたものでした。そんな心配もよそに、毎日「オギャー、オギャー」と鳴く子供の大きい声は、私には、心地よい音楽に聞こえていました。「1週間、無事に育てばもうだいじょうぶだ。」と聞かされ、とにかくスピーカーに向かう毎日が続きました。最初は、子供の鳴き声も定期的に聞かれましたが、だんだん落ちついてきたのか、鳴き声もあまりしなくなり、声も低く小さくなってきました。子供がよくお乳を飲むことから、母親も喉がかわいて、ときどき水を飲み、その場を離れるのでしよう。子供が鳴くのはこの時ぐらいと想像されました。しかし、1日に1回しか鳴き声を確認できない日は、やはり心配させられました。でも今度は、母親の子育ての苦労も知らずに、早く子供の顔が見たくなってきました。

父親は、外からでも子供の鳴き声が聞き取れたのか、シャッター越しに部屋の中をのぞき込み、そわそわと寂しそうな顔をしているのが印象に残りました。

そんな日々が過ぎ、3か月近く何も食べていない母親の体調も考え、そろそろ餌を与えなければならぬと判断しました。これまでの記録をもとに部屋に入る日を今年の1月17日と決めました。いざ部屋に入ると、扉のベニヤ板

を外す音で母親が興奮して子供に危害をくわえないか、私が部屋に入って母親と顔を合わせた時に、私の顔を見て母親は子供に何かしないだろうかなどと、不安が頭の中でかめぐるりました。しかし、いざ部屋の中に入るとベニヤ板の外す音や私の顔を見てもさほど怒ることもなく、すぐに私のところまで来て、シャッター越しに足を出して威嚇してきましたが、それもすぐにおさまりました。そして、私が持ってきたパン、ソーセージ、白菜を少し与えるとペロリとたいらげました。子供がゆっくりと奥から姿をみせたのは、そのときでした。その顔は真っ白で、目がかわいくて、なんとも言えない表情で印象的でした。ここまで、がんばってきた良かったと思ったのはまさにこの瞬間でした。



生後2か月頃

それからの毎日は、動物舎に入り、隣の産室側に母子を移して、産室を清掃してワラを交換したりで、久しぶりに気持ちのいい汗をかき、楽しく作業をすることができました。子供は母親にちょっかいをだしたり、あまえたり、お乳をねだったりとワンパクな子供で、私が冗談でちょっかいをだすと、子供ながらも威嚇してくるのには驚かされました。2月に入って父親を部屋に収容することにしましたが、母親も別に興奮することもなくスムーズにことが運びました。母親は日に日に採食量が増え、はじめは見た目は少し痩せて見えたのがだんだん体格も元に戻り、母子ともに3月15日から一般公開することになりました。公開前にこの子供がメスであることが確認できました。

一般公開当日は、運動場に出て子供がプールにはまっても、すぐに陸に上がれるように水をいっぱいにし準備を整えました。午前中はまず父親だけを出し、午後から父親を産室に収容したのち、母親と子供を出すことにしました。父親と同居できないのは、父親が子供を食べてしまう危険性があるからです。



運動場になかなか出ようとしない子供

いよいよ母子を外に出す日となり、私も何ごともなく無事に出て欲しいと思いつつ、外に出すシャッ

ターを開けました。母親はすぐ外に出ましたが、子供はなかなか出ようとしないため、母親はすぐ部屋に戻り子供を外に出そうとしました。何回か繰り返していたところ子供も決心がついたのかやっ



一步一步慎重に歩く子供

と外に出ました。子供は、広いところに出るのはこれが初めてなので、少し戸惑いがあるのか、母親にぴったり寄り添いこわごわ歩いていました。だんだん慣れてきて母親をそっこのけで池のそばで遊んでいたところ、そのまま池の中に落ちてしまいました。“何事もなく無事に！”と祈っていたのに、こんな突然のハプニングに、外で見ていた入園者や関係者、なによりも私の頭の中は、パニック状態になりました。

そんな私たちの心配の中で、母親はすぐに池に飛び込み子供を陸に上げようとがんばりましたが、なかなかうまくいかず、子供は上がろうとバタバタするばかりでした。しかし、母親はあわてることなく子供を泳がせ、ラッコのように子供をお腹



池に落ちてしまったとき

の上に乗せたり、手で引っ張ってやったりして子供の気持ちを落ち着かせたあと、子供をくわえて上にあげたのでした。そばで見ている人々からは期せずして拍手が起りました。私は母親のこの行動を見ていてまるで、映画の一場面を見ているように、母親の愛情の深さと子育てのうまさにただただ感動しました。

**私**はこの親子からいろいろ教えられることが多くありました。またこの母親を見ていて、我慢することのすばらしさも学びました。さまざまな動物と接していると、動物から教わることも多くあり、動物の素晴らしいところづくりに感心します。この子供が元気で無事に成長して、この母親のような子育てができるようになり、たくさんの元気な子供を産み育ててくれることを期待したいものです。

(飼育課 大東 孝司)

# グラフZOO コウノトリの仲間たち



“鳥の楽園”では多くの水鳥が飼育されていますが、今回はコウノトリの仲間を紹介しましょう。(撮影：編集委員会)

## シュバシコウ

*Ciconia ciconia*

一番多いのがこの鳥、毎年ヒナがふ化しています。ヨーロッパコウノトリとも呼ばれ、赤ちゃんを運んで来る鳥として親しまれています。



## コサギ

*Egretta garzetta*

上流のほうの木の上でたくさん巣作りをしています。繁殖期には頭と肩から美しい飾り羽がのびてきます。



## クロトキ

*Threskiornis aethiopicus*

下に曲がった長いちばしが特徴的です。少数派であり目立たないのでよく探してみてください。



## アマサギ

*Egretta ibis*

少数派ですが、夏になると頭から胸、背中にかけてオレンジ色(亜麻色)になるのでとても目立ちます。



## アオサギ

*Ardea cinerea*



あまり多くはありませんが、毎年ヒナをかえしています。番外編ですが、網の上に野生のアオサギが50羽以上やって来て、ヒナがたくさんふ化しています。(上の写真は野生のヒナ)

## シュモクドリ

*Scopus umbretta*



直径1m以上もある大きな小屋のような巣を作り、中でヒナを育てます。頭が鐘をたたくしゅもくのような形をしています。

# 獣医室から

62

## § 動物たちの繁殖

今年も、たくさんの動物の赤ちゃんが生まれています。鳥類では、フンボルトペンギン、コサンケイ、オシドリ、ニホンコウノトリなどがふ化しました。哺乳類では、ヒツジ、エランド、エジプトルーセットオオコウモリ、バーバリシープ、クロサイなどの赤ちゃんが生まれています。

これらの動物の繁殖がうまくいくように、動物園では様々な工夫をしています。特に、発情期や妊娠の有無を正確に知ることは、繁殖に適した環境を準備する上で大変重要です。今回はその中から哺乳類、特にサル類の発情期の把握と妊娠診断の方法についてお話しします。

動物には、一年中繰り返し発情する周年発情と一年のうち決まった季節にだけ発情する季節発情の動物がいます。同じサルの仲間にも、ニホンザルのように季節発情するものやチンパンジーのように周年発情するものがあります。チンパンジーはメスのお尻(性皮)が赤く腫れるので、簡単に発情期がわかりますが、オランウータンのように外見上ほとんど変化のない動物の発情期はなかなかわかりません。こんな場合には、発情期を知る有効な方法はホルモン検査です。

動物の体内には、器官の動きや行動をつかさどるいろいろなホルモンがあります。繁殖に関連するホルモンの中のひとつである発情ホルモンを測定すれば、正確な発情期を知ることができます。発情ホルモンは、血液や尿の中に出てきますので、血液中のホルモンを測定すれば、より正確な発情期を知ることができます。



尿中の発情ホルモンの検査

では血液を採るために麻酔をかける必要があることから、この方法を利用できる動物は限られます。そこで、血液の代わりに尿を用いてホルモン検査

を行っています。尿中の発情ホルモンの量は血液中のそれに比べてやや遅れて変動しますが、パターンはほぼ同じです。現在、当園では毎日メスのオランウータンの尿中ホルモンの測定を行っています。オランウータンは通常単独生活しており、発情期にのみオスとメスが行動を共にします。この生態を動物園でも再現し、発情期にのみ同居させることにより、確実な繁殖を目指しています。妊娠しているかどうかは、交尾後に発情が来ないこと、腹部の膨らみ、乳頭の膨らみなど外見上の変化でおおまかに診断できますが、正確さに欠けます。この場合も、妊娠をつかさどるホルモン(黄体ホルモン)などを調べれば正確に診断できますが、この検査は結構時間と経費がかかります。もし簡単に触れたり、捕まえたりできる動物であれば、より正確な診断をするため他の検査方法を用います。

その1つが、レントゲン撮影による診断です。この方法は、胎児の骨格をはっきりと確認できるので良い方法といえますが、実際には妊娠初期では骨格形成が不十分ですので、診断が難しく、また、胎児に悪影響を及ぼす可能性がある点で早期診断には利用しにくい方法です。

近年、超音波診断装置(エコー)を用いた妊娠診断方法が用いられるようになってきました。この方法は、胎児に影響なく妊娠診断できる優れた方法で、家畜の分野では10年以上前から利用されています。最近では、人の妊娠診断、人工授精や体外受精に数多く利用されています。

先日、当園でパタスザルのメスがオスにかまれるという事故が発生しました。すぐに手術をし、入院させ



エコーを用いた妊娠診断(撮影:内山 晟)

ましたが、このメスはこの数か月発情がみられず、最近では腹部の膨らみが目立ってきたので、もしかしたら妊娠?と想像していました。ちょうどいい機会なので、エコーで検査してみました。検査はいたって簡単で、腹部にゼリーを塗り、プローブという長さ10cm、幅3cmの板をあてるだけです。お腹を切らずに中を見ることができます。今回の検査の結果、胎児の存在を確認し、改めて、検査の重要性を認識しました。

この他にも、動物園では繁殖のために様々な工夫をしていますが、これからも、よりすぐれた技術を身につけ、動物たちが安全で、確実な繁殖ができるようにと考えています。

(飼育課:竹田 正人)

- 4/1. “鳥の楽園”でカモ類の産卵が始っています。
- 4/2. パタスザルのメスがオスに咬まれたので、動物病院に入院させ手術しました。ベニジュケイが今季初めて産卵しました。

**4月3日** 1月16日にふ化したフンボルトペンギンのヒナが巣立ちし、早速プールで初め

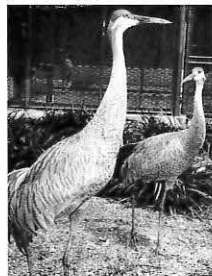


て泳ぎました。まだ泳ぎ方はぎこちなく、ペンギンらしくありませんが、仲間の泳ぎを見て徐々に上手になることでしょう。

- 4/4. 3月に生まれたエジプトルーセットオオコウモリ3頭のうち2頭に、個体識別のため入墨をしました。

ベンガルトラのオス親と母仔を同居させました。

- 4月5日** 3月に入園したカナダヅルのつがいの検疫が終わったので、ツル舎に展示しました。カナダヅルの展示は当園では初めてのことで、これでツル舎では9種のツルを見ることができるようになりました。



- 4/7. キーウィが産卵しました。
- 4/8. アオサギのヒナを1羽保護しました。
- 4/10. トカラヤギが1頭生まれました。
- 4/11. チュウゴクオオカミのオス“ムスタン”とメスを同居させました。
- 4/12. コサンケイが5羽人工ふ化しました。
- 4/13. バーバリシープのふた仔が生まれました。3月15日に展示し始めたホッキョクグマの赤ちゃんが初めて泳ぎました。
- 4/15. ニジキジが今季初めて産卵しました。
- 4/16. マナヅルが今季初めて産卵しました。
- 4/16. ヤマシギを1羽保護しました。
- 4/17. オオソリハシシギ、ツバメを各1羽とホンドタヌキを1頭保護しました。

- 4月20日** クロサイの赤ちゃんが生まれました。母親の“さっちゃん”は1972年に当園で生まれたもので、父親の“トミー”は1989年に広島市安佐動物公園から来園したものです。動物園で生まれた両親から赤ちゃんが生まれたのは日本では初めてのことで



“さっちゃん”

## 今月もおもしろ情報満載

# ZOO DIARY



ん”は2産目ですので、赤ちゃんをうまく育てることでしよう。

- 4/20. “鳥の楽園”でコサギのヒナを確認しました。
- 4/20. 入院中のパタスザルが妊娠しているかを超音波診断装置で確認しました。

- 4月21日** 今季2羽目のエミューが、人工ふ化しました。2月25日に産卵し、その日からふ卵器に入れて暖めていたもので、ふ化日数は55日でした。



- 4/22. チンパンジーの定期健康診断を行いました。
- 4/23. ノドグロイワシヤコとタンザニアアカノドシヤコが入園しました。検疫が終わり次第、キジ舎に展示する予定です。

- 4月26日** ニホンコウノトリがふ化しました。昨年に引続き2度目のふ化で、ふ化日数は32日でした。続いて27日、28日にもそれぞれ1羽ふ化しました。ちなみに今年は4卵産卵していましたが、1卵はふ化しませんでした。



ハクビシンの赤ちゃんが生まれました。

- 4/27. 今季3羽目のエミューがふ化しました。
- 4/28. ミヤマハクカンが今季初めて産卵しました。

### ■ お知らせ ■

- 動物園のおじさんのお話「今年生まれの赤ちゃん」日時:6月19日(日)午後1時から 場所:レクチャールーム
- サマースクール生徒募集 6月1日(水)~6月30日(木)
- テレフォンサービス 06-771-9999

訂正 5月号のZOO DIARYでシンガポール動物園から来園したヒクイドリとありますが、ジュロンパークからのまちがいでしたので、お詫びして訂正します。

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修  
B5変型判・オールカラー  
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間とは？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

くらしかいかたシリーズ〈既刊本〉  
B5変型判・オールカラー・各定価680円

### むしくらしか いかた

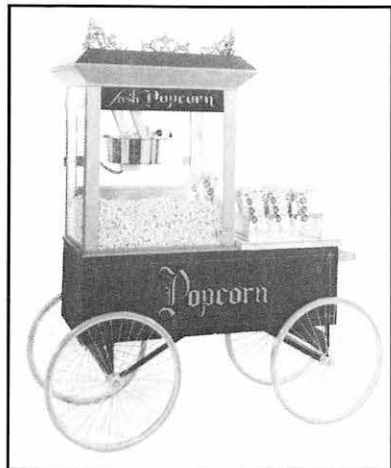
野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきもの くらしか いかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。

☆ 光のくに株式会社 本社／〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



## マスタのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他  
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30  
TEL (06) 865-0165

## オートフォーカスカメラに

# フジカラー SUPER HG 400



ピントが合いやすいフィルムです

### カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
阪急三番街店 ☎372-5031  
OHVAC店  
(ギャレ大阪) ☎346-7606

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

# 動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する  
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家  
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉

会費／年1,500円 (切手72円・呈既刊号目次)

## 動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

- 対象／保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間／10日間
- 貸出料／無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先／当協会まで手紙かハガキで  
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800 (50度用)

## 天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

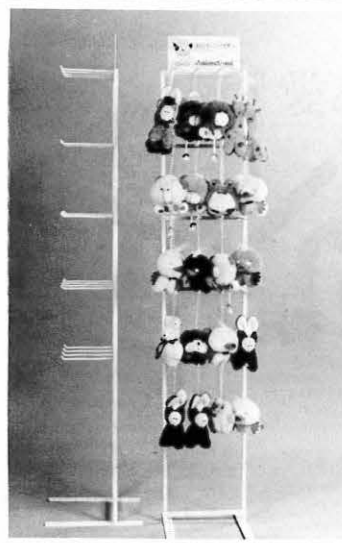


オールカラー

500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

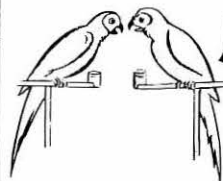


# 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

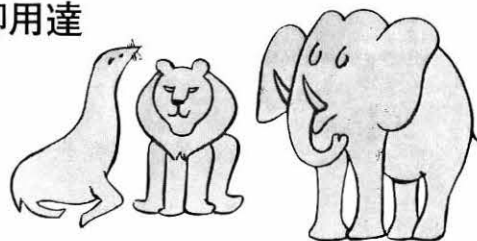
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL:(06)704-8580  
FAX:(06)704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

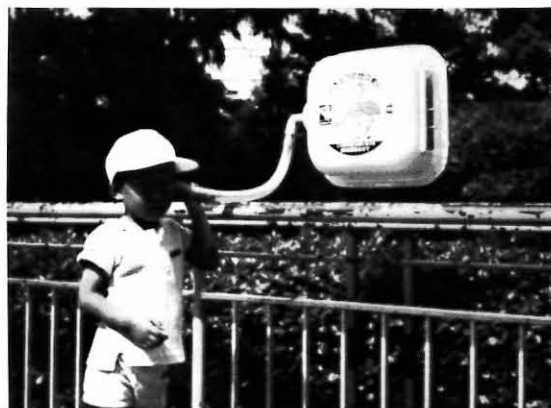


## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

### たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

### 動物園内での お食事、 ご休憩は

動物園内.....

## 中央売店

TEL 06-771-0973



お食事・飲み物・おみやげ 動物園内  
**南園売店** TEL 06-771-7110



### 思いやり、ほんの少し、コアラのために。



応援してね!



多くの思いやりが、ひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援します。

多くの人に支えられて育ってきたコアラのマーチ。

一方、コアラのふるさとオーストラリアでは、シドニー近郊の山火事などにより、コアラたちの安住の地が年々少なくなってきています。

そこで、ロッテでは、コアラのマーチ誕生10周年を記念するキャンペーンを実施するとともに、

コアラを取りまく環境を守ろうと、オーストラリア・コアラ基金(1986年設立)のゴールドスポンサーになりました。

コアラのマーチを支えてくれる皆様の思いやりがひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援いたします。

## LOTTE





Our Yogurt has fruity  
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と  
覚えてね。



新発売

しほりたてミルクのおいしさが、生きている。

雪印  
**ヨーグル**

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HIJIRI-KOJIMA

一日  
愉快地  
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社  
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1994年6月10日発行(毎月10日発行)第30巻 第6号(通巻346号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共)1年継続(12部)1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 大阪3-37823

編集委員

(中山良三郎/岩倉善樹/増野良敏/樽本 勲/中川哲男/山根和弘/吉本昌俊/谷森 進/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭)  
(森本委利/中上正幸/堀内智生/小林崇宏/竹田正人/大野尊信/野口秀高/早川 篤/土谷正道/村上勇一/仁田原洋)